ハイ・デザイン商品開発事業

ー桐スリッパのデザイン開発№2ー

平松　茂夫

＊

1.緒　言

市場における消費者ニーズの多様化や個性化,高級化傾向は生活関連商品に顕著に現れている。一方,地場産業や伝統産業といわれる業種では，これら生活日用品の生産に係わるものが多く,消費者ニーズに対処する手だてを持たないといった問題点を抱えており,その商品も非日常的な商品領域のものが多いと言える。したがって,地場産業の発展や活性化のためには,非日常的商品の生産から日常的商品の開発への転換を図ることが最重要課題と言える。

当研究は,地場産業が持つ資源,技術を生かし,消費者二一ズにあった高付加価値商品の開発をとおして地場産業の開発能力を育成するため,高いデザインカ(感性)を持つ先駆的な核(コア)となる商品の開発を目的としている。

本年度は,前報に引続き試作改善を行った。

2．内　容

試作に用いたキリ材は,前報同様玉切り材から柾取りし，レジングルー接着剤と酢ビ系接着村に尿素系接着剤を 10%混入した 2 種類の接着剤で集成したものを用いた。レジングルー集成材はアルコール溶性染料を用い,酢ビ系は水溶性染料のタンク内でそれぞれ湯漬加圧注入した。アルコール溶性染料中で圧力 4kg/㎡，4 時間加圧注入したものは木端面で平均 2㎜ 浸透着色し,おおむね良好な結果を得た。一方,水溶性染料の場合,同圧力条件では浸透性が不均一で,仕上げ加工代を確保出来なかった。また,加圧力を 8kg/㎡ とした場合,加圧並びに乾燥工程中に接着層の剥離及び材の落込みが発生し良好な結果を得られなかった。

3.結　言

桐スリッパの染色加工については，アルコール溶性染料による方法が乾燥,後加工上の歩留まりや,発色が良いなど適していることが分かった。

また商品のサイズは，日本皮革産業連合会が昭和 62 年に実施した足型研究開発事業の 3,000 人のデータを参考として仮説的に 26.5cm,25.0cm,24.5cm の 3 種類としたが,確定するには至らなかった。デザイン開発した桐スリッパは,商品性が期待できるため意匠登録を申請した。今回開発した製品は,商品化のためのプロトタイプとしてまだ検討すべきことが残されているが.業界での商品化を早急に進めるうえからも,業界主導型の事業に転換を図って行く考えである。

*工芸・意匠部

桐スリッパ試作品